

あぐりdeなんたん

南丹農業改良普及センターだより **Topics**

平成28年2月
第18号

特集 ◎地域の担い手として
京都丹波に新たな力が続々と集結！

～新規就農者にインタビュー～
P2～5

- 農薬の適切な使用について P6
- 京都丹波就農サポート講座 平成28年度受講生募集！ P6
- Topics P7
 - 京の米で京の酒を！
 - 南丹地域農村女性・加工研究会ロゴマーク誕生
 - 京都丹波農業応援隊がサポートします！
 - NEW Faces
- 表彰 P8
 - 農の匠・京都府農山漁村伝承技能登録者
 - 第43回全国豆類経営改善共励会
 - 2015年度全国優良経営体表彰事業
- 退任・認定された農業士の皆さん P8



磨き上げた知恵と技

平成27年度 農の匠・京都府農山漁村伝承技能登録者

●技能登録された皆様(敬称略)

南丹市 野間 則夫 「肉用繁殖牛飼養管理技術」
吉田 美千子 「小豆の加工技術」
京丹波町 軽尾 一雄 「ハウレンソウの周年栽培」

京都府では農山漁村地域に伝わる伝統的で優れた生産・生活に関わる技能を2年に一度登録しています。今年度、南丹地域では3名の方に登録証を交付しました。今後のご活躍が期待されます。



(軽尾さん) (吉田さん) (野間さん)

●「農の匠」(敬称略)

南丹市 内藤 定夫 「高品質トマト栽培」

トマトの木箱出荷から段ボール出荷にいち早く切り替えた流通改革や、ビニールハウスの改良による品質向上と高段着果の安定技術の確立、土壌病害対策のための接木育苗技術導入等、地域の高品質トマト生産を牽引されました。



第43回

全国豆類経営改善共励会 農林水産大臣賞受賞

第43回全国豆類経営改善共励会「小豆・いんげん落花生等の部(参加81点)」において、農事組合法人「河原林」が農林水産大臣賞を受賞されました。当法人の小豆栽培は、平成18年からコンバインによる機械収穫の実証を開始し、平成20年からは産学官一体となって定着へ向けた取り組みを進めました。播種から収穫に至るまで機械化一貫体系による大幅な省力化と安定した収量、高い品質を実現したことが今回の受賞につながりました。



2015年度

全国優良経営体表彰事業 農林水産省経営局長賞

京丹波町蒲生地区の新田尚志さんが、農林水産省と全国担い手育成総合支援協議会が行う2015年度全国優良経営体表彰事業で、個人経営体部門の農林水産省経営局長賞を受賞されました。

新田さんは現在、15haの広大な面積で特産の黒大豆枝豆や野菜を主体に栽培されています。素晴らしき経営に加えて農作業に高齢者を雇用するなど、地域の農業振興や活性化に貢献したことが高く評価されました。



編集・発行

京都府南丹広域振興局
農林商工部
南丹農業改良普及センター
京都府南丹市園部町小山東町藤ノ木21
TEL 0771-62-0665
FAX 0771-63-1864
ホームページ
http://www.pref.kyoto.jp/nantan/no-nokai/
E-mail
nanshin-no-nantan-nokai@pref.kyoto.lg.jp
【再生紙を使用しています】

退任・認定された農業士の皆さん(敬称略)

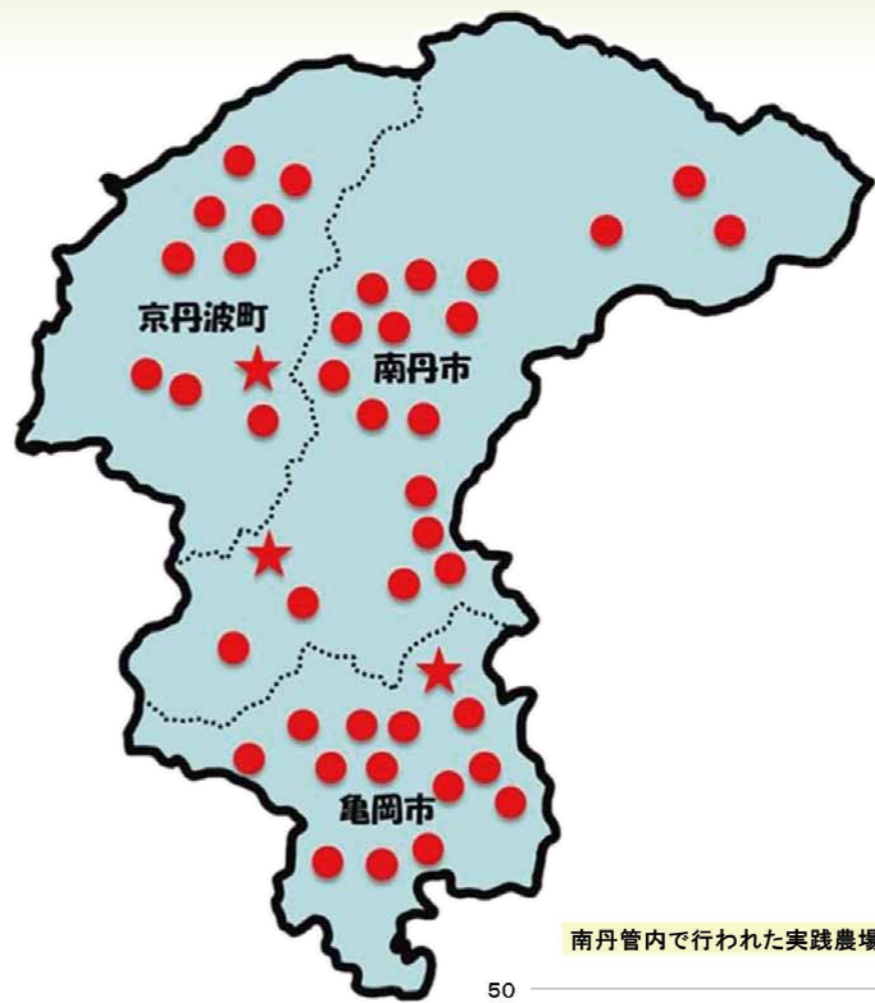
新任				退任			
	青年農業士 綿井 庸祐 南丹市八木町 わたいたい ようすけ		女性農業士 井尻 逸子 南丹市日吉町 いしりり いてこ		女性農業士 井上 清美 亀岡市河原林町 いのうえ きよみ		指導農業士 西田 勝和 亀岡市千歲町 にしだ まさかず
	青年農業士 谷関 学 南丹市 たにかし たくみ		女性農業士 浅井 明美 京丹波町 あさい てるみ		女性農業士 中井 佳代子 南丹市 なかい けいだいこ		女性農業士 酒井 幸子 南丹市 さかい ゆきこ
	青年農業士 中野 淳一 南丹市 なかの じゅんいち		女性農業士 谷井 裕 南丹市 やい ひろ		女性農業士 平井 栄 南丹市 ひらい 栄		指導農業士 中西 晴吾 南丹市 なかにし はるご

よろしくお願ひします

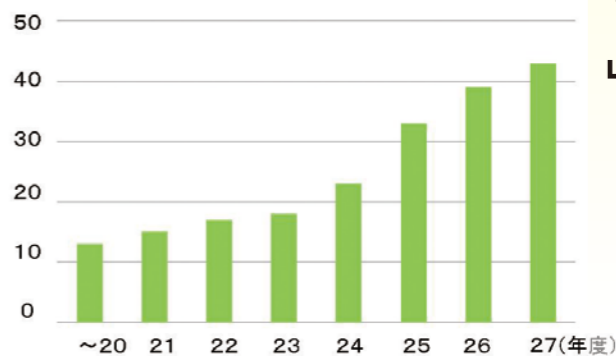
お世話になりました

地域の担い手として

「京都丹波に新しい力が続々と集結！」



南丹管内で行われた実践農場の数(累積)



●・・・実践農場地
(修了、研修中を含む)
★・・・インタビュー
(平成14年度～平成27年度設置場所)

実践農場とは？

市町村や京都府農業総合支援センターなどと連携し、新しく就農を希望される方を対象に、就農予定地で技術習得から就農までを一貫して支援する実践的な研修の場です。

技術指導者とは？

研修生が農業生産技術を修得できるような農産物栽培の技術指導者のこと。

担い手づくり後見人とは？

研修生が農村地域に溶けこめるよう農村地域での生活や地域の習慣等を助言いただく方のこと。

南丹管内では「担い手養成実践農場研修」に取り組み、就農した農家が27名おられ、現在も14名の方が研修に取り組んでおられます。

今回は、実践農場の取り組みを終え、地域の担い手として活躍される3名を紹介します。

農業経営を始めて感じたこと、今後の抱負など3名の熱い想いを聞くことができました。また、研修中の指導者や担い手づくり後見人をお世話になられた方々にも、研修中や現在の様子に加え今後、地域の担い手として期待することなどをお聞きしました。

京の米で京の酒を！

酒米の紹介

京都府では酒米の生産者団体から酒造業界までが一体となって、酒米の生産振興と、それらを原料とする日本酒のPRに取り組んでいます。

今回は南丹地域でも栽培されている酒米の中で、京都府オリジナル品種の「祝」と「京の輝き」について紹介します。

「祝」はお酒づくりの中でも主に酒の味を決める麴をつくる工程で重用される酒づくりに適したお米です。京の水で仕込むと、きめ細かな柔らかくふくらみのある味わいを醸し出します。その味わいは京料理との相性も絶妙です。

「京の輝き」は主にもろみを造る工程で使うお米です。「京の輝き」は従来の原料米よりも大粒で収量が多く、



仕上がったお酒は香りが高く、まろやかな味わいが特徴です。

皆さんが「祝」や「京の輝き」など京都の酒米で出た「京の酒」を飲むことで、これらの需要が増え、京都の酒米の生産振興へつながります。親しい人とのひとときや、お祝いの場面でぜひ「京の酒」をご賞味ください！

Topics

南丹地域農村女性・加工研究会ロゴマーク誕生

南丹地域農村女性・加工研究会は、加工活動の技術研鑽と情報発信・会員相互交流を図るために平成15年に組織された会です。27年度の会員数は98人で、研修会や加工食品コンクールなど、計画を立てて活動しています。

昨年度から会のロゴマークを作成しようという話が持ち上がり、マークのデザイン等、役員会で検討を重ねてきました。

会員が製造販売する商品を统一的にPRし、



こだわりや頑張りを発信していくために認定基準を作成し、その基準を満たす商品にマークを貼って販売していく予定です。年度内に商品を認定できるよう頑張っています。直売所やイベントの時に地元の加工グループによるシール付き商品を是非探してみてください。



京都丹波農業応援隊がサポートします！

農業応援隊は、普及指導員が商工関係や流通関係の方々と連携しながら、規模拡大や農商工連携、6次産業化などにチャレンジする方の相談窓口となり伴走支援する組織です。お気軽にご相談ください。



尾崎技師です！

私は、27年4月に農業技師として採用されました。今はわからないことばかりですが、先輩職員や農家の方から教えてもらい、早く一人前の普及指導員になりたいと思います。

NEW Faces



河村技師

尾崎技師

河村技師です！
南丹普及センターに配属になって約2年が経ちました。担当作物は水稲です。日本酒が大好きで、酒米の生産振興と消費拡大にがんばっています。

一念発起で1ターン

亀岡市 高橋 求さん



高橋求さん(31歳)は、平成27年3月に就農し、ナス、小松菜、ホウレンソウ、小カブなどを亀岡市内の直売所やスーパー等で直売する経営を開始されました。

大学卒業後は会社勤めでしたが、ものづくりへの興味と自分の裁量で仕事ができる魅力から農業の世界に飛び込みました。最初に八ヶ岳中央農業実践大学校で農業研修を受けましたが、この研修中に南丹地域へ訪れたことが、高橋さんが南丹地域へ1ターンするきっかけとなりました。研修カリキュラムの中で、南丹地域で就農している先輩を訪ねた際に、「ここは消費地が近いし、先輩のしっかりした経営を参考にすれば自分もやっていけるかもしれない。」と思い、南丹地域で就農する

亀岡市・高橋氏

「旭は景色がよいし、外の人でも受け入れてくれるので、ここで就農してよかった。」と話す姿が印象的でした。

研修中に担い手づくり後見人を務めた人見さんは、「遠いところから来てくれたが、気張ってやっている。」と高く評価されています。

研修中指導した岩田さんは、「基盤をしっかりつくった上で、無理せず営農していつてもらえたら。」

旭町で担い手養成実践農場研修を受けました。研修中は、ナスの収穫作業に予想以上の時間がかかり、他の作物の栽培管理が追いつかなくなるなど、いろいろな苦労がありました。経営開始後は確実に栽培できる品目に絞り、まずはしっかりと生計を立てていくことを目標に、日々汗を流しておられます。

意志を固めた。亀岡市内での「京の農林水産業」未来を担う人づくり推進事業で農業を経験した後、平成25年3月から2年間、亀岡市



地元の直売所での出荷風景

と期待を寄せた上で、「ただ、人との関わり合いが大切なので、積極的に人と接する心構えを。」とアドバイスされています。

将来は、農薬や化学肥料の使用量を抑えた環境にやさしい栽培方法で京野菜を生産し、地域の担い手になっていきたいと思っておられ、今後、亀岡市の農業農村を支えていくことが期待されています。



岩田康裕氏・高橋求氏・人見勝洋氏

農薬の適切な使用について

農薬は正しい方法で使えば、農作物を病害虫や雑草の被害から安全かつ省力的に守ることができます。しかし、誤った方法で使用すると、使用者だけでなく、農作物や周辺環境にも被害を及ぼす恐れがあります。以下のことに注意して、適切に使用しましょう。



- 1 農林水産省登録のある農薬を使用してください。無登録農薬の使用は法律で禁止されています。
- 2 農薬のラベルに書いてある登録内容(作物名、適用病害虫・雑草名、使用量、希釈倍数、使用時期、使用回数、最終有効年月等)を守って使用してください。
- 3 適切な保護具(マスク、メガネ、手袋、防除衣等)を着用して、薬剤を体に浴びたり吸い込んだりしないようにしましょう。
- 4 農薬を使用する際は、風の弱い時に風向きに注意して散布する、飛散低減ノズルやカバーを使用するなどの対策を行い、周辺のほ場や住宅地への飛散を防止しましょう。
- 5 農薬の散布後は、使用履歴(使用年月日、場所、作物名、農薬名、使用濃度・使用量等)を記載しましょう。

農薬の安全性について、2014年から、従来の残留農薬評価法に加えて、新たに農薬の残留した農作物を一度に多量に食べても健康に悪影響がないと考えられる量を評価して、残留基準値が設定されることとなりました。

古い登録内容で使用すると残留基準値を超える可能性がありますので、必ず最新の登録内容を確認し使用してください。最新の農薬登録情報は、農薬メーカーのホームページ等を参照してください。



ココに注目

2014年から、新しい残留農薬評価が導入されました!

平成28年度 京都丹波就農サポート講座

受講生募集中!!

- 対象 将来、京都丹波地域の担い手として営農するために基礎技術習得が必要な方。定員は20名程度。
- 日時 平成28年4月～10月 原則 平日午後1時30分～5時
- 会場 京都府園部総合庁舎 (南丹市園部町小山東町藤ノ木21) 他
- 講座内容(予定) ☆土壌肥料、病害虫防除、露地野菜、施設野菜、豆類等の基礎技術 ☆先進農家の経営視察研修
- 受講料 無料(実費負担をお願いすることがあります)
- 申込方法 申込書に記入の上、持参・郵送・FAX・電子メールで申し込み。書類選考の上、3月下旬に受講生を決定。詳しい募集要領・申込書の請求は普及センターまで(普及センターのホームページにも掲載)
- 締切 平成28年3月8日(火)必着



一步一步、確実に…

京丹波町質美 藤井 敬士さん



京丹波町・藤井氏

京丹波町質美の藤井啓士さん（60歳）は平成26年2月に就農。施設4棟10aでホウレンソウの周年栽培をされています。大阪で大工を営まれていたが、仕事が減っていく中、今後どうしていくか考えた時に思い浮かんだのが農業でした。大工を辞めて、農業大学の短期講座を受講。受講後の就農地を探していた時、京丹波町質美が候補に挙がりました。卒業後、1年間は大西修さんのもとで、地域の特産物であるホウレンソウの栽培技術を学び、その後、更に2年間「担い手養成実践農場研修」に取り組みました。経営を始めて一年半が経ち、多くのことを経験されました。「気象条件に

よって左右されるのが農業。品物が少ない時に出荷できるように栽培しています。高値が付いた時は嬉しいですね。」と藤井さん。あと少しで出荷できると意気込んでいたところ、害虫の被害に遭い、出荷できなくなった時もあったそうです。土づくりにもこだわりを持っておられ、完熟堆肥と合わせて様々な土壌改良資材を投入する等して試行錯誤されています。研修中に指導をされていた大西修さんは「研修の時から真面目で頑張ってくれている。今後、地域の農業を引っ張る存在になって欲しい。」と大いに期待されています。また、研修中に担い手づくり後見人を務められた大西弘二さんからも「高齢化が進む中、若い力が地域に入ってきたことはとても嬉しい。若い人が頑張る姿を見て地域も活気付けば。」と期待されています。最後に抱負について聞いてみたところ「今後は、地域の特産



大西弘二氏・藤井敬士氏・大西修氏

物である黒大豆や小豆も栽培できたらいいなと考えています。今年から黒大豆の栽培を始めたが、シカの被害に遭った。まずは、目の前にある課題をひとつひとつ解決し、ステップアップしていきたい。」と力強くお話しくださいました。地域の担い手として、一経営者として、今後の更なる経営発展が期待されます。

儲かる農業を目指して

南丹市園部町 堤 博明さん



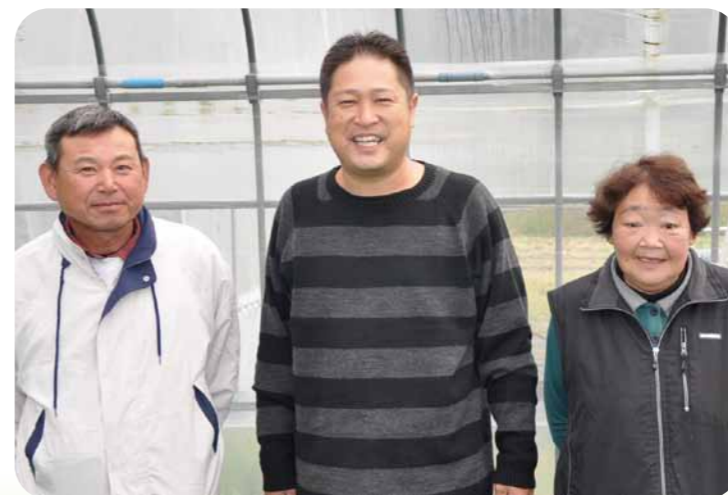
南丹市・堤氏

南丹市園部町仁江の堤博明さん（43歳）は、27年6月に2年間の担い手養成実践農場研修を修了して就農されました。紫ずきん、ハウスでの伏見トウガラシ、シユンギクなどを奥さん、親族と共に栽培し、JAを通じた市場出荷を行っています。堤さんは非農家出身で農業は未経験でしたが、奥さんの実家が仁江で農業をされていることから興味を持ち、就農を志されました。担い手養成実践農場研修では、「仁江が



紫ずきんの花

術指導者として栽培技術の研修に当たり、同地区の当地区長をされていた小寺努さんが担い手づくり後見人として生活面などの指導に当たられました。小寺つたえさんは「堤さんは非常に熱心に研修に取り組み、また自分でも情報収集や勉強して、今ではかえって私の方が教えてもらっているくらい技術力も高い。」小寺努さんは「研修期間中から積極的に地域の行事に参加するなどして仁江の人達に溶け込んでいる。」と話され、「今後は農業の担い手として地域を引っ張り、後輩を指導するようになって欲しい。」と大きな期待を寄せています。



小寺努氏・堤博明氏・小寺つたえ氏

堤さんは、「他地域からの新規参入にもかかわらず、同地区の方々に暖かく受け入れていただきました。このつながりを大切にしていきたい。」「今後は規模の拡大を行い、紫ずきんを主力において年間雇用できるような作物も追加していきたい。」と視野に力を入れて儲かる農業を行っていききたい。」と意欲的に営農に取り組んでおられます。